

英検、入試、定期テストで点を取るためには欠かせない読解力。
今回は、前回に引き続き、英語の読解力を身に付ける方法を具体的に紹介していきます。

中学生や高校生が英語の文章を読んでいるところを観察していると、すぐにスラッシュを入れたり、辞書を用いたり、何かしらの記号やメモを書き入れている姿が目につきます。学校の授業や塾の指導の影響を受けているのかもしれませんが、こうした書き込みは文法を学習するためには必要かもしれませんが、文章の内容をさらっと読み取る際には逆にマイナスに働くこともあります。なにより、時間がかかってしまいます。

あなたが**ある英語の文章を読むとき、次のことを感じることはありませんか。**

- ア 文章が難しくて理解できない
- イ 読む速度が遅い

アの原因としては、次のことが考えられます。

- 語彙が不足している。
- 題材に関する知識がない。

イの原因としては、次のことが考えられます。

- 1 文 1 文の意味の理解にこだわり過ぎて戻り読みをすることが多い。
- すべての文を日本語に訳している。語数の多い文章に慣れていない。

心当たりのある人が多いのではないのでしょうか。上手な読み手になるためには、「[第 5 回：目的に応じた読み方で読解力を高めよう\(1\)](#)」で述べたように、様々な英語の読み方ができるようになる必要があります。
読む目的、学習の目的に合わせて、適切な読み物(教材・素材)を選び、様々な読み方ができるようになりましょう。

その 1 たくさんの英文に触れよう！

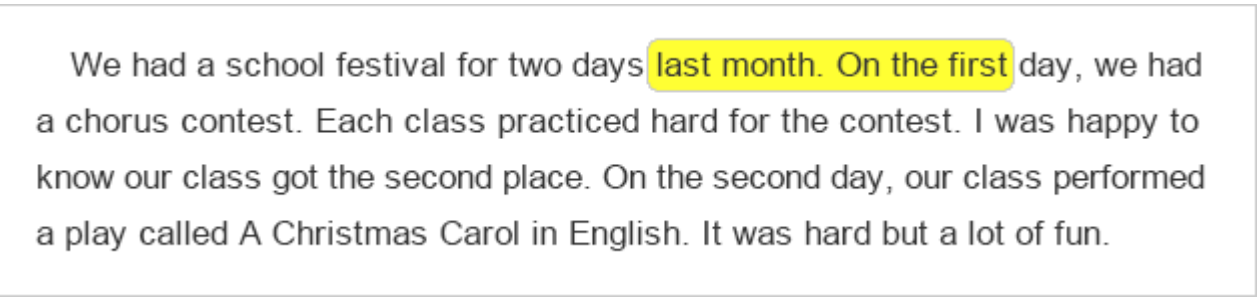
教科書の本文は文法や語彙を学習するためにも作られています。したがって、1 回の授業で 100 語程度までしか扱われないことが多いと思います。これに慣れてしまうと、語数の多い文章を一気に読み進める力が育っていない場合があります。
英検 4 級レベルであれば 400 語、
3 級レベルであれば 800 語、
準 2 級レベルであれば 1,200 語くらいの文章は一気に読み切る力を身に付けたいものです。
英語力を身に付けるには、英語にたくさん触れることが必要です。ときには、教科書だけでなく、学習者用に書かれた洋書を読みましょう。多読用の洋書であれば、自分のレベルに合ったものを選ぶことができます。洋書を読む際は、「楽しむために読む」ことを心掛けてください。辞書を引くのであれば、1 章を読んだ後に「ストーリーを把握する上で重要な 3 つの単語まで調べる」などと自分でルールを決めてもよいでしょう。
とにかく楽しみながら英語に触れることが大切です。冬休みにぜひ 1 冊、英語の本を読んでみてください。

その 2 情報を探し出そう！

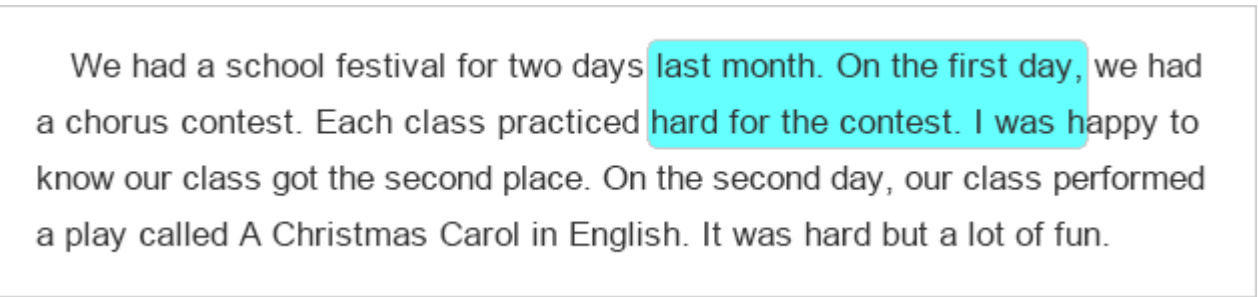
知りたい情報がどこに書いてあるのかを探す活動をスキヤニング(Scanning)と呼びます。日常生活でもこのスキヤニングをする機会は多く、英和辞典で単語を探すことがまさにスキヤニングです。
スキヤニングに慣れるための練習方法を紹介しますので試してみてください。
ある程度の語数のある文章を用意してください。英検の過去問でも教科書の読み物教材でも入試問題でもよいです。

文章の頭から、速めのスピードで読んでいき、目的の単語(下に述べる①～⑤)を探して○で囲むなど、印をしてください。英文をじっくり読むときには数語先までを見ながらゆっくり読んでいると思いますが、スキヤニングをするときは、一度に目にする範囲を広げます。これがコツになります。

例えば、last month という語句を文章中から探すのであれば、視野を広くし、目に入ってくる単語の中から last month を素早く探すのです。
◇じっくり読むときの視野のイメージ
(黄色い部分：数語が同時視野に入っている)



◇スキヤニングしているときの視野のイメージ
(青い部分：複数行にわたった部分が同時に視野に入っている)



では、スキヤニングの練習を行ってみましょう。
[英検の過去問](#)などの文章を利用して、次の 5 つのことを順番に行ってみてください。一度読んでしまうとどこにどんな単語があるのか分かってしまうので、実際にはそれぞれ別の文章で行うほうが効果的です。

- ① 大文字で始まる単語(人名、地名など)を探す
- ② 否定文(not や never などがある文)を探す
- ③ 時を表す語句を探す
- ④ 場所を表す語句を探す
- ⑤ 逆接を表す単語(but や however など)

どうでしたか？ 上の①～⑤は、文章の意味を正確に理解するのに欠かせないキーワードとも言えます。慣れてきたらスピードを上げて練習してみてください。